



第二号 2007年秋

アトリエから ー創刊のお礼ー

楽居通信を創刊した事で、多くの方から励ましの言葉や、今後への期待のお手紙、メールを頂きました。改めてこの場を借りて御礼申し上げます。お手紙の中にお世話になった方の計報と、その家族からの生前の両親に代わるお礼状等もありました。知らなかった事とは言え日頃のご無沙汰を痛切に感じ、出会った頃の故人との思い出が鮮やかに蘇り、ただ頭を下げ合掌をするのみでした。冒頭から、このような話になり申し訳ありません。こうした私達の手づくり通信が次世代を担う方や、まだお会いしていない方等の目に触れ、思わぬ方向から言葉を頂くこともありました。改めて自分達の役割と継続する事の大切さを感じました。私達が仕事を通じ、人との交流を介し、どれだけ人々の心を捉え必要な存在になれるのだろうか。そうした関係や場を求め創る事も、モノ造りの精神として大切と考えています。

さて今回の楽居は、自分達の好きな場所や風景を見つめ直す事。その事を通じて改めてその風景を生み出し、支えて来た多くの人々の力や関わりを感じてみる。

そうした視点を風景から社会に、仕事に、人間関係に置き換えてみた時どのように映るのか等。このテーマの追求はまだまた続きそうです。

編集スタッフ一同、仕事の合間の取材、製作となりました。ご一読くだされば幸いです。

楽居 編集責任 入之内 瑛

アトリエ住人 ー私の好きな風景ー

数十年前、東京の女子校に転校後、友人と竣工間もない御岳の「玉堂美術館」へ。緑の山並み、大好きな清流、白い土塀の美術館、対岸の集落には鯉のぼり。東京近郊にも懐かしく癒される景色が…と感激したその河岸が今もそのままの風景で都市梱包恒例のバーベキュー・芋煮会場になるうとは…ご一緒にいかがですか？（松尾 邦子）



仕事であったり、休日の天気が悪かったりと、夕日を見る機会は意外と少ないものです。そのため、天気の良い休日に巡り会う夕日は貴重で、高揚感のある好きな風景のひとつです。ただ、その後に押し寄せる1日（休日）の終わりを切なく感じる気持ちは、いつも見ていた子供の頃と変わらないようです。（菊池 裕貴）

これは、愛媛県今治市より見える、瀬戸内海のしまなみ海道です。私の実家付近で撮影した物です。水平線の彼方にはいくつもの島影見える瀬戸内海、そこに架かるしまなみ海道、ライトアップをした風景もひとしおです。帰省のたびに、私を癒してくれる風景です。皆様も一度おいでませ。（相原 久恵）



錦江湾に浮かぶように威風堂々とそびえる桜島と噴煙。別名「薩摩富士」と称される開聞岳の背後から昇る初日の出。初日の出に向かってラジオ体操をする人達。起伏にうねるようにストライプの緑の陰影を出している「知覧茶」のお茶畑。（子どもの頃、夏休みにお茶摘みの手伝いをしたことを思い出す・・・）伝統的保存群になっている「武家屋敷の枯山水庭園」。特攻隊の基地の跡と、特攻平和観音の桜と石灯籠。独特のイントネーションを持つ方言。灼熱の太陽。澄み通った空・・・等々。自分自身は所沢生まれの所沢育ちですが、両親の生まれ育った故郷「鹿兒島の風景」が好きです。（横山 陽一）

自然のままの造形もまた素晴らしいのですが、耕された畑や、四季を通じた水田、手入れされた木立など、その風景の中に暮らしや人の気配を感じられると、なにかほっとします。たくさんの人が居る街の中にも、もっとそういう風景があっていいのでは、とつい思ってしまいます。（小池 なみ）



ログハウスの建て方が終わったときの写真です。図面上で2次元でイメージしていたものが立体になったときの、丸太だけの美しい骨組みの状態が好きです。屋根がかかる前のこの瞬間を施主さんにもぜひ見てもらいたいです。（土屋 雅史）

（土屋 雅史）

川や海、水たまりなど水のある風景が好きです。自分が生まれ育った高知は雨が多く、水を身近に感じて過ごしてきました。子供の頃は雨があまり好きではなかったのですが、台風の去ったあとにできた水たまりに映った空がとてもきれいで、それ以来、水とともに水に映る風景を好んで見えています。（西村 洋平）



中学の頃に写真集で見たアラスカエスキモーの島です。昨年夏、ついに訪れることができました。温暖化の影響で島が沈むため、2年後には全島民550人が本土へ移住。正に見納めでした。生命の力強さと隣合せの死、それらを見守り、時に容赦なく飲み込む自然に恐怖を覚えるとともに、美しいと感じました。（成田 未紗子）

作品紹介

■ 阿佐ヶ谷 KAWAさんの家 ～立体庭園壁の家～

所在地 東京都杉並区
延床面積 197㎡
構造/規模 木造2階
竣工 1992年3月 『住宅建築』1996年9月号掲載



新しい家を築く事は、以前の古い環境を失う事でもあります。

KAWAさん宅の敷地は住宅地の角地で、老朽化した住居と庭木が所狭しと立っていました。そこに息子家族と住む2世帯住居をつくるのですが、家族と車の要望を満足するには、敷地全体が居住の場と考えなくてはならない…そうすると、角地の庭木は殆ど残らないのです。そこで提案したのが失った庭木を駐車場の周囲に立体的に確保する（立体庭園壁）方法です。こうする事で車を角地から隠す事と、住居との間に外部との干涉帯ともなる小さな自然を取り入れた囲み庭がとれました。この場合は駐車場であり出入り口であり、近隣との交流の場ともなっています。



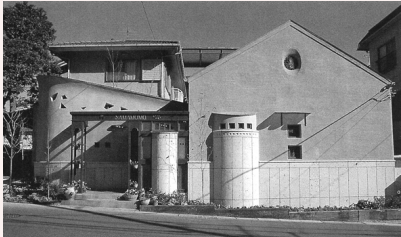
←近隣の人には、立体庭園壁の緑が失った庭木の代わりの新しい目印になっています。



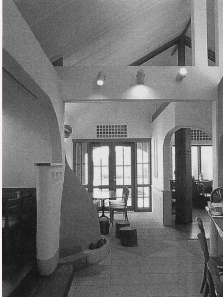
立体庭園壁の内側にできた→ポーチ空間。

■ やまもも ～町角のティールーム～

所在地 千葉県柏市
延床面積 78㎡
構造/規模 木造平屋建
竣工 1995年9月
『住宅建築』1996年9月号掲載



この“やまもも”は住宅の庭を利用して建てたティーサロンです。永く住んだ庭を突然営業用の場と模様替えしても、隠しきれない住み手の個性というか、“残像”が出てしまいます。この建物ではそうした住まいの“残像”を消す部分と、大いに利用する部分に分けて計画しています。消そうとした部分は、主に背後に立つ住宅の外観や日常性であり、生かそうとしたのが、斜面地や庭木です。斜面に沿ったスキップフロア形式の床や、掘り込まれた前庭、階段などは今ではこの建物の特長となっています。また、出入口付近に残されたこの建物の守り木“やまもも”は、この建物とともに街角に小さなオアシスをつくっています。



←ティーサロン内部

■ 長野幼稚園

所在地 群馬県高崎市
延床面積 609㎡
構造/規模 木造2階
竣工 2002年1月
第10回たかさき都市景観賞受賞



この建築は、中央の12角形の塔状建築は榛名山を、左右の棟は周辺の歴史的建築物や田園景観をイメージし、全体を木の素材を活かした木造建築としました。

12角形の塔（アトリウム）は、12本の磨き丸太が屋根まで伸びてホール全体の構造を支え、ハイサイドライトから光が差し込む明るい空間です。12本の磨き丸太は、“12カ月＝1年”を意味しており、子ども達の入園や卒園など1年間を巡る時間を建築として表わしたものです。



←エントランスホールは、外観・内部ともに圓のシンボルとなる空間となっています。



丸太柱からのびる方杖が、森の→ように子ども達をつつむ保育室。

■ 小淵沢 デイサービスセンター + 保健センター

所在地 山梨県北杜市
延床面積 1384㎡
構造/規模 RC2階
竣工 2003年4月

八ヶ岳南麓の山梨県小淵沢町（現在は北杜市）に建設した、デイサービスセンターと保健センターを併設した施設です。



小淵沢は八ヶ岳の観光・リゾートの玄関口であり、町の北側には観光関連施設が数多く見られますが、この建物は南西側、旧来からの集落地にある小高い里山を敷地として計画しています。立地の特徴である高低差の活用や、ケヤキの大木等の植生を残すことなどをテーマに、町の健康・

福祉の新たな拠点となる施設を創り出しました。1階が保健センター、2階がデイサービスセンターで、各階に専用のエントランスを計画しています。



←2階のデイルームは南向きの天井が高い心地の良い空間で、晴れた日には目の前に雄大な南アルプスの山並みが広がります。